

月例情報市場報告

ながのボランティア・市民活動支援ネットワーク

2020年10月24日(土)、200回記念拡大版月例情報市場を開催しました!

参加いただいた皆様、ありがとうございました。コロナ禍の中で定員50名とさせていただきましたが、総勢42名のご参加を頂き盛大に開催することが出来ました。

パネリストにハッピーサークル 若山さん、長野県地域生活定着支援センター 大藪さん、天空の里 いもい農場 西沢さんそして、ゲストとして軽井沢町情報市庭 高尾さん 山岸さんにご参加いただきました。



込山会長の手書き垂れ幕



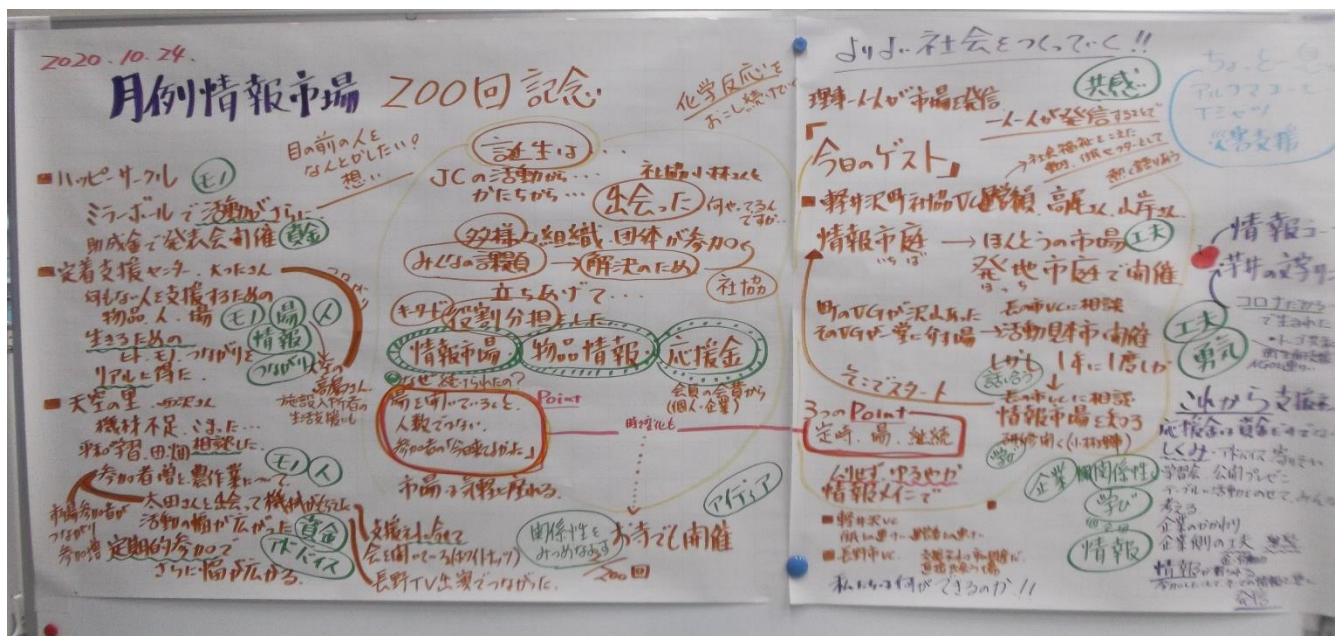
会場の様子



本日のパネリスト・ゲストのみなさま



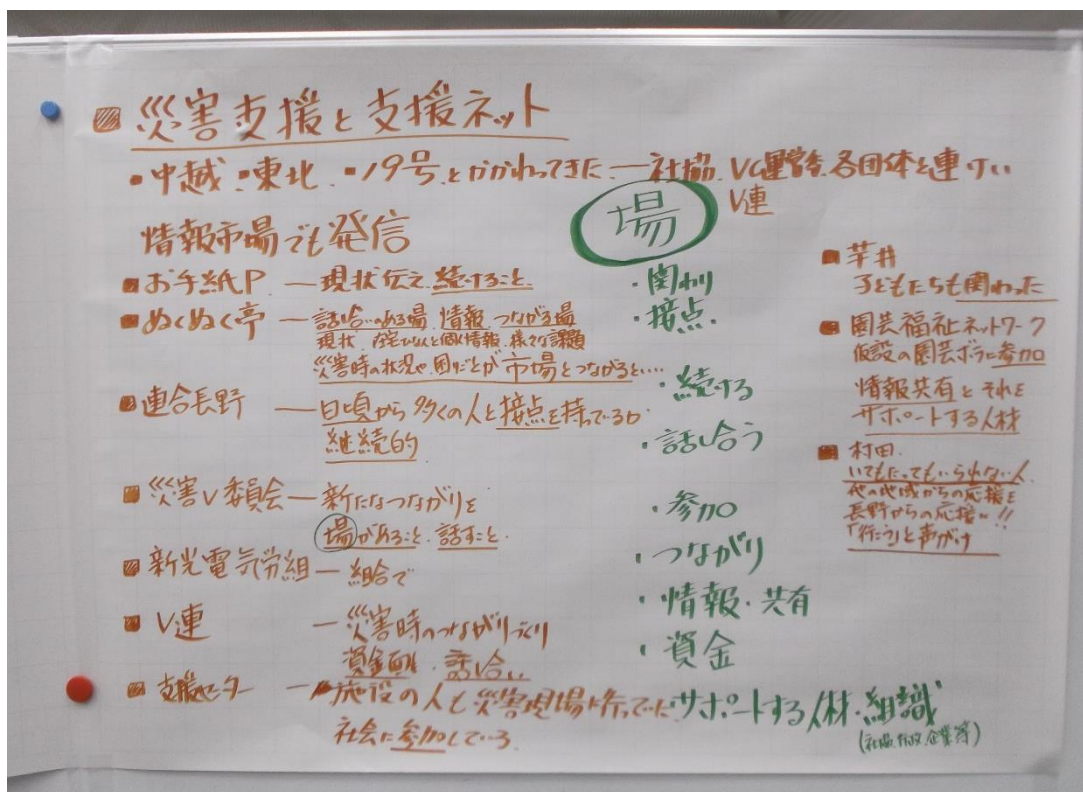
※ファシリテーショングラフィックを戸田理事が書いて、まとめをしてくださいました。



“月例情報市場 200回記念”

支援ネットワークが誕生した時のことを竜野前会長がお話いただきました。当時は困って解決のために相談をして解決のために多様な組織や団体が一緒に立ち上がって、それを継続するために役割分担をしてそして、みんなで分担した。そこで山現会長はそれをずっと続けられたのは、場を常に開けていたことと人数ではなく参加者が今日来てよかった

と感じてくれることであった。そしてその先に、軽井沢の情報市庭が同じような流れで、町の中のボランティアの課題を見つけて、長野市のボランティアセンターや支援ネットに相談した。そして様々な話し合いを繰り返して更に工夫もあり、小林さんの学びの研修を受けたことによって、毎月決まった（同じ）時間・決まった（同じ）場所で継続するというポイントが、込山会長のお話いただいたポイントとつながる。場所が常に同じというところは200分の2回、木賣さんの西敬寺で開催されたが、時々は変化も必要なのかもしれない。そういう変化、工夫も月例情報市場の継続には必要だった。ではそこで起こっていることは何なのかというところで、ハッピーサークルの若山さんと定着センターの大藪さんと天空の里 いもい農場の西沢さんからいろいろお話をして頂きました。月例情報市場のいいところは情報や資金とか物に必ずアドバイスだとか人とかがくっついてくるから多分みなさんは継続して参加をして下さるのかなあという事を本田さんの言葉からもうかがえました。



“災害支援と支援ネット”

災害の皆さんの事もお聞きしていて、そこから見てきたのはやはり先程月例情報市場のところから出てきたのと同じですが、災害支援のそれぞれの団体さんがおっしゃっていただいた中でキーワードを見つけると、関わりがあること・接点があること・続けること・話し合うこと、清水さんは話し合いのある場があるとそこにつながりがあり情報があり情報

を共用することで、土田さんがおっしゃった、いろんな思いの共感が生まれる。資金的なものももちろん必要。大蔦さんがおっしゃっていただいた一時保護の更生施設の方も参加していただいていた。参加というキーワードもひとつ必要で、参加をするということは社会に参加するということでみなさんのモチベーションも上がってくる。もう一つ、山岸さんが災害の時はサポートしている人材が大事だとおっしゃいました。そこにプラスしてサポートする人材や組織、特に社協などが、ここは見落としがちですが重要ポイントかなと思いました。村田さんが「行こう」と声がけしたとおっしゃっていましたが、そういう声がけ・誘うということも大事ですね。

“これからどうするか”

西沢さんが応援金は資金だけではなくてアドバイスだったり寄り添ってくれたりだとかいろんなものがついてくるとおっしゃいました。支援ネットワークの応援金の仕組みの特徴、学習会・公開審査会、プレゼンテーション方法などがあり、これからも続けていく。応援金のもとには企業・個人会員からの会費からきています。企業とのかかわりも大切で、企業側もただお金を出すのではなく工夫してお金を出すということと継続が大事なんじゃないかと思いました。

そして最後、村田さんもおっしゃってました。「居ても立ても居られない人」、情報市場の支え手。この月例情報市場に来ると、みんなが目の前の人を何とかしてあげたいという思いがある。よく言われるのが、なんだかよくわからない化学反応がおきている、でもそれがよりよい社会をつくっていくという大きな目的に向かっているということだと思います。

